

平成27年7月30日

於 全員協議会室

平成27年7月

大和市教育委員会定例会

大和市教育委員会

平成27年7月大和市教育委員会定例会

○平成27年7月30日（木曜日）

○出席委員（5名）

1番	委員長職務代理者	鈴木勝雄
2番	委員	石川創一
3番	教育長	柿本隆夫
4番	委員	篠田優里
5番	委員	青蔭文雄

○事務局出席者

教育部長	齋藤園子	こども部長	関信夫
文化スポーツ部長	北島滋穂	教育総務課長	大下等
学校教育課長	犬塚克徳	保健給食課長	佐藤正美
指導室長	藤井明	教育研究所長	深谷美紀
青少年相談室長	池田操	こども・青少年課長	佐藤則夫
文化振興課長	樋田久美子	生涯学習センター館長	山崎浩
図書館長	桜井真澄		

○書記

教育総務課 政策調整 担当係長	齋藤信行	教育総務課 政策調整 担当主査	澤村のどか
-----------------------	------	-----------------------	-------

○日程

- 1 開 会
- 2 会議時間の決定
- 3 前会会議録の承認
- 4 会議録署名委員の決定
- 5 教育長の報告
- 6 議 事
日程第1（議案第32号） 平成27年度大和市奨学生の決定について
日程第2（議案第33号） 平成28年度使用中学校教科用図書採択について
日程第3（議案第34号） 平成27年度義務教育諸学校使用教科用図書採択に関する請願について
- 7 そ の 他
- 8 閉 会

開会 午前9時30分

○青 蔭 ただいまから、教育委員会7月定例会を開会いたします。
委員長 会議時間は午後2時までといたします。
前会の会議録は、署名委員の署名をもって承認されました。
今会の署名委員は、2番石川委員、3番柿本委員、それぞれよろしくお
願いいたします。

続きまして、教育長の報告を求めます。

○柿 本 前月定例会以降の報告をさせていただきます。
教育長 6月26日には、学校保健会総会でご挨拶をさせていただきました。こ
の学校保健会では、養護教諭や保健担当教員が中心となって、医師会や歯
科医師会、薬剤師会などのご協力をいただきながら、子どもたちの健康と
安全に関して取り組んでまいりました。現在も、幾つかの部会に分かれ、
実践的な研究を進めております。長時間のゲームや運動不足などの生活の
変化から、子どもたちの体の発達に深刻な事態が見られ、文部科学省は、
健康診断に、今までなかった体に関するチェック項目を追加することを検
討していると聞いております。学校保健会の役割は、今後ますます重要に
なると思われまます。

6月29日、7月2日・3日の三日間で学校訪問をしてまいりました。
訪問校は、つきみ野中、北大和小、中央林間小、鶴間中、林間小、南林間
中、緑野小、西鶴間小、大和中、大和小の10校でした。教育委員の皆様
もお疲れさまでした。

今年度の学校訪問で、学校から報告してもらい、協議するテーマとし
て、1 いじめ・不登校問題解消について、①学校いじめ基本方針に基づ
く具体的な取り組みについて、②不登校の早期対応群への具体的な取り組
みについて、2 学校学力向上プランに基づく取り組みについて、の二つ
を挙げ、各学校での取り組みの現状や苦勞を聞きながら協議することがで
きました。

いじめ・不登校問題につきましては、様々なケースを抱えながらも学校
が努力し、多くの成果を上げていることがよく分かりました。しかし、こ

うした課題は、終わりがああるものではないので、小学校においては、今年度全校に導入した児童支援中核教諭を中心に、組織的な取り組みを構築してほしいと思いました。中学校では、中学1年の夏休み以降に不登校の生徒が増える実態があり、ポイントをとらえた支援を今後も継続して行ってほしいと思います。

学力向上に関しましては、各学校でそれぞれの児童・生徒の実態に合わせて学力向上プランを作成し、取り組みが始まっております。学力向上は大和市としての喫緊の課題でもあり、具体的な取り組みをしっかりと重ねる中で、学力向上プランの成果が出ることを期待しております。

また、今年度の学校訪問では、初めての取り組みとして、学校側から課題に感じていることや、教職員が困難に思っていることなど、学校が独自で設定したテーマについても意見交換を行いました。各学校から様々な実情の報告や意見、要望が出されましたが、一番多かったのは、学校に人手が欲しいということだったように思います。多様な課題を抱え、子どもたちのニーズもさまざまになる中で、現在の学校体制では対応しきれないことがあるというものでした。

教育委員会としては、現在も特別支援教育スクールアシスタントやヘルパー、学校図書館司書、少人数指導非常勤教師など、可能な限りの人的な支援を行っておりますが、今後も教育現場の状況を分析し、どのような学校組織が有効なのかを考えてまいりたいと思います。

有意義な意見交換が行われた学校訪問でございました。教育委員の皆様からも、後ほどご感想を聞かせていただけたらと思います。

7月1日には、学校給食共同調理場運営協議会が開催されました。昭和29年に施行された学校給食法には、学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するものであること等にかんがみ、学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とすると記されています。

大和市では、すべての児童・生徒に安全でおいしい給食を届けるよう、努力をしてまいりました。また栄養士を中心に、食育にも取り組んでまいりました。共同調理場では、老朽化する調理器具を計画的に交換するなど、安全に配慮しながら、おいしい給食の提供に力を注いでおります。

今回の協議会では、平成26年度の学校給食費会計収入支出決算などを審議していただきました。

7月7日には、井上副市長、教育部長、指導室と共に、小学校英語教育の先進市である岐阜市と大阪市に視察に行っていました。

岐阜小学校では、5年生の授業を参観することができました。子どもたちは私たちに、地元の長良川の鵜飼いや、総合の授業で調査した川に住む水生生物の紹介などをしてくれました。抵抗なく英語で表現しようとする子どもたちの姿が、とても印象的でした。

数々の教具を使いながら、テンポよく授業を進めていく担任の先生の方にも驚きました。担任の英語で授業が進み、ALTも担任の求めに応じて参加してきます。友達の英語での会話も、子どもたちはしっかり聞き、先生の質問にも楽しそうに答えておりました。

また、大阪市では、小中学校にモジュールでの英語プログラムを取り入れ始めたということでの話を聞かせていただきました。モジュール15分、週3回の取り方は、学校現場の実情に合わせて設定しているとのことでした。15分の英語プログラムは、教材がしっかりとあれば、何をすればよいのか分かりやすく、時間的にも取り組みやすいという声が現場の教員から届いているとのことでした。

英語教育をめぐる国の動向も慌ただしくなっております。こうした動きの先を行けるよう、大和市でも来年度からはより一層、英語教育を進めてまいります。子どもたちを、そして現場の教員たちを、具体的にはどのようにサポートしていけばよいのかを、先進市の取り組みに学びながら決めていきたいと考えております。

7月9日には、保健福祉センターで青少年問題協議会が開催されました。今年度の青少年健全育成事業や、青少年健全育成大会の計画が説明され、また大和警察署、生活安全課からは、犯罪認知状況や少年非行の概況の報告がございました。少年非行の前年度比では、減少傾向にあるとのことでした。また青少年健全育成に関係する各団体からも、取り組みの報告がございました。青少年の健全育成は、社会全体で進めるべきものです。これからも、関係する団体が手を取り合って、取り組んでいけたらと思

ます。

7月10日には、「JFA夢の教室」を草柳小学校で教育委員の皆様に見学していただきました。女子バレーボールの元日本代表選手が、自分の辛く厳しい経験の中でも夢を掴んでいくお話に、子どもたちが真剣に耳を傾けている姿が印象的でした。

同じく7月10日の午後には、大和市学校事務研究協議会で1時間半ほど講演をいたしました。学校事務職員の皆さんには、日ごろから経理などの学校事務を一手に支えてもらっています。しかし、教職員の多忙化などを背景に、文部科学省が打ち出した「チーム学校」では、学校事務職員は、今後、学校事務にとどまることなく、校長や教頭をサポートして、学校運営にも携わることが求められております。名称も、「学校運営主事」などに変更されることも検討されています。

また一方では、経験ある学校事務職員が多く定年退職を迎えることで、年齢構成が非常に若くなり、人材育成の問題も生じています。学校事務が一人である職場も多く、OJTの限界もあり、市全体の課題として浮上しております。

こうした現状を踏まえ、今後の学校事務職員の在り方について、お話ししてまいりました。学校の中での責任の拡大を積極的に受け止めることや、市全体に学校事務連携制度などを取り入れる必要性などの課題についてお話ししました。

7月11日には、勤労福祉会館で青少年健全育成講演会を、青少年相談室が中心となって開催いたしました。今年は多くの不登校や引きこもりの若者を支援してきたNPO法人「くだかけ会」の和田重良さんを講師としてお招きし、お話を聞くことができました。

「心の芯を耕す」という演題で、出会った子どもたちの様子や、和田先生が子どもたちに出す一風変わった宿題のことなど、ユーモアを交えてお話しくださいました。教育は、効率的、一律的なものではないというお考えが、聞き手にはよく伝わってまいりました。

以上、報告でございます。

次に、次回定例会までの動きについて、確認をさせていただきます。

8月5日には、市内小中学校の校長研修会があり、30分ほど私から講話をする予定でございます。8月6日には、生涯学習振興補助金の選考会が予定されております。

以上で教育長報告を終わります。

○青 蔭 委員長 ただいま教育長からの報告がございました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

○鈴 木 委 員 学校訪問についてですが、今回、学校いじめ防止基本方針について話を聞きました。各校ともよくできていて、またホームページなどで公表されていることも良いと思います。1点、フローチャートは、分かりやすくするよう心がけてほしいと思いました。世間の関心が非常に高い中で、私は情報の共有化が一番大事だと思っています。そういった点を踏まえ、地域の皆様にもホームページや学校だよりなどを通じて、いろいろ発信してほしいと思います。

また学力向上については、ある学校で「家庭学習ノート」を活用しているとのことでした。有効な取り組みだと思っておりますので、ほかの学校でも取り入れてほしいと思っております。

続いて、見学させてもらった「夢の教室」ですが、落合真理先生のお話の中で印象に残ったのは「3C」という言葉です。「チャレンジ、チェンジ、チャンス」の三つが大事だということが印象的でした。

また先日、「夏休み寺子屋やまと」を見学してまいりました。コーディネーターを中心に、支援員の皆さんが子どもたちをサポートし、また学校の教員たちも手伝いに来るなど、活気にあふれ素晴らしいと思いました。特に、児童クラブの子どもたちも参加しているということで、今後も期待したいと思います。感想用紙というものがあつたので、子どもたちの感想も、まとまったら教えてほしいと思っております。

それから7月16日木曜日に、ここ全員協議会室で第1回総合教育会議がございました。内容は、大和市の総合教育会議の運営についてであり、また今後の進め方についても話がありました。

最後に、私が毎年楽しみにしている「やまとおもしろ科学館」が、8月8日土曜日に生涯学習センターで開催されます。例年、子どもたちの興味

をそそるような実験などがありますので、楽しみにしております。

○石川 委員 私も学校訪問について、感想を述べたいと思います。不登校問題については、ここ数年続けてテーマとしています。したがって、学校の対応も非常に迅速にきめ細かく進められていると思います。そして不登校の児童・生徒もやや減少してきているのではないかという状況です。

ただ、不登校やいじめの問題につきましても、先日他県で中学生が亡くなった悲しい事故がありました。学校で事前に把握していたのかどうか、分かりませんが、いじめにかかわる自殺であると判断をしたようです。

やはり、不登校が減少したから、いじめが減少したからといっても、今回のような重大な事態がいつ起こるか分かりません。そのような心構えで対応をしていかなければいけないと思います。本市は、非常に丁寧に対応しているところですが、万が一にもこのような事故を起こさないよう、できるだけ早い対応をしていくことが大事だと思います。

もう一点、大和市の学力向上についてです。各学校に学力向上プランの作成をお願いしたわけですが、そのプランを今回見ますと、やはり、やや抽象的なところがありました。このプランを、実際には子どもたちへの指導にどのような形で落とし込み、どのように成果を上げていくか、という具体性が、まだ少し見えてこないような気がしました。もう少し具体的な対策について今後、各学校をお願いしていきたいと思った次第です。

○篠田 委員 私は「夢の教室」についての感想です。とても内容の濃い2時間の授業でした。

最初は、体育館でのゲームでした。子どもたちが一つの目標の達成に向かって、お互い声を掛け合いながら取り組んでおり、一人一人の一生懸命な姿がとても印象的でした。

その後、教室で“夢先生”のお話を伺いました。先生の実体験を交えたお話は、とても説得力のあるものでした。最後の、子どもたちが夢を発表する場面では、多くの児童が手を挙げていました。そして、先生の「時間が少ないから、あと一人だけ」との言葉に、とてもおとなしそうな女の子が、勇気を振り絞って手を挙げたように見受けられ、印象に残っていま

す。先生が子どもたちの心の中の思いを上手に引き出し、子ども同士の影響力もあって、ここで発表したい、皆に伝えたいと、きっと思わせてくれたのだろうと感じました。この「夢の教室」は、とても力強い授業であると実感いたしました。

- 青 蔭 ありがとうございます。ほかにございませんか。
委員長 ないようですので、教育長の報告に対する質疑を終了いたします。

◎議 事

- 青 蔭 続きまして、日程第1（議案第32号）「平成27年度大和市奨学生の
委員長 決定について」を議題といたします。

細部説明を求めます。犬塚学校教育課長。

- 犬 塚 先月の定例会では、大和市奨学生選考審査会への諮問についてご審議い
学校教育 ただきありがとうございました。平成27年度大和市奨学生選考審査会が
課 長 7月13日月曜日に行われ、3名の委員全員に出席していただきました。

同審査会より、家庭の経済状況、学業成績、納税状況などを総合的に判断して、平成27年度41名の新たな奨学生の答申を得ております。

また、平成26年度からの継続の受給者21名、同じく平成25年度からの受給者22名についても答申が得られました。

平成27年度については、申請者48名中、成績要件で1名、所得要件で6名が対象から外れ、41名となっております。

それでは、本年度の奨学生の決定について、ご審議をお願いいたします。

- 青 蔭 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、
委員長 よろしく願いいたします。

- 石 川 市内の中学校の中で、申請者が一人もない学校が幾つかありますが、
委 員 その理由を教えていただければと思います。

- 犬 塚 このところ、申請者がいない学校はなかったのですが、去年、今年と
学校教育 1～2校、いない学校が出ております。私どもからは、校長会を通して周
課 長 知しているのですが、結果としてこうなっております。

今年については、また別な形で保護者に直接チラシを配るなど、周知の方法を考えていきたいと思っております。

○石川 やはり、せつかくの制度ですから、お願いします。

委員 もう一つ、大和市は就学援助の受給世帯が非常に多い市です。その関係もあり、申請者のいない学校が出てくるということ自体が、課題であると思います。もちろん、成績などの要件がうまく整わないご家庭もあるのかもしれませんが、もう少しきめ細かく、各家庭に周知していただければなお良いのではないかと思います。

今回推薦された子どもたちに対しては、全く異議はありません。定員が50名という枠の中で、それに満たないとすると、どうしてかと考えざるを得ないと思いますので、よろしくお願いします。

○柿本 私も確認をしたいのですが、継続の受給者は、26年度からが21名、
教育長 25年度からが22名ということで、人数が50名近くから半分以上減っています。この原因と、もっと受給してもらうための対策を考えていれば教えてください。

○犬塚 一つ目のご質問ですけれども、平成26年度からの受給者は、昨年度時
学校教育 時点で28名おりました。毎年申請書を提出する必要がありますが、申請書
課長 を出していない受給者が3名おりました。

その方については、電話やお手紙で2回ほど連絡したのですが、結局、申請書が提出されませんでした。ひょっとしたら学校をお辞めになったのかもしれない。

所得未申告で1名、所得要件で3名ほど外れ、合計21名となり、昨年度の受給者より減っております。

今後については、最初が50名だったとして、その後収入が基準を上回ってしまうと、対象から外れてしまいます。また、学校を辞める方もあり、その場合にも当然受給できなくなりますので、どうしても減っていくことは避けられない部分がございます。

○柿本 分かりました。

教育長

○篠田 今の話に関連して、逆に初めは申請していなかったけれども、その後状

委員 況が変わり、経済的に苦しくなった場合、高校2年生や3年生で初めて申請することは可能なのでしょうか。

○犬塚 奨学金の給付規則で、中学校長の推薦を受けて、成績、人物、所得の各学校教育要件を満たさなくてはならないことになっています。ですから、もし高校課長 2年、3年になった時、経済的事情が変わって申請したいということになった場合には、規則改正を含めて新たな方法を考える必要があると思います。その場合、例えば出身中学校に、中学時代の人物証明をしてもらうなど、方法はいろいろ考えられると思いますが、規則の改正は必要となります。

○篠田 よく分かりました。実際にそのような方もなくはないと推測しますと、委員 今後、そういった対策も考えていく必要があるように感じました。

○鈴木 私も篠田委員と同じく、規則改正も視野に検討していけたら良いと思います。委員

○犬塚 いただいたご意見を参考に、今後、対策としてどのような方法がある学校教育課長 か、しっかりと研究、検討していきたいと思います。

○青蔭 よろしく願いいたします。

委員長 ほかに委員の方々、ご意見はございますか。

ないようでございますので、質疑を終結いたします。

これより議案第32号について採決いたします。

本件の原案についてご異議はございませんでしょうか。

(「異議なし」の声)

○青蔭 異議なしということでございますので、議案第32号は可決いたしました。委員長

次の日程第2(議案第33号)ですが、議事運営上、日程を変更し、「その他」の後に審議することとします。

また、ここで議案を1件追加いたします。日程第3(議案第34号)「平成27年度義務教育諸学校使用教科用図書採択に関する請願について」を議題といたします。

請願ですので、直ちに審議に入りたいと思います。質疑、ご意見等ござ

いましたら、よろしくお願い申し上げます。

○石川委員 教科書採択に関わる請願なのですが、この後、次の議案でもって教科書採択が実際に行われるわけです。そこで事前にこの請願を検討し、かつ意見を言い合うということになりますと、後の教科書採択に影響を及ぼしてしまうのではないかと思います。ですから、本請願に関して、ここでは議論しない方が良いのではないかと思いますけれども、いかがですか。

○鈴木委員 私も、次の議題に関連するので、石川委員と同様に考えます。

○柿本教育長 では私から、本請願を留める動議を提出したいと思います。
理由として、この請願は、かながわ教育ビジョンと、今回の大和市の採択方針に関わる内容を含んでおります。本市の教科用図書採択方針は、神奈川県採択方針に基づいて行うとしております。

その神奈川県採択方針の中の一つの観点として、かながわ教育ビジョンが挙げられており、その内容に踏み込んだ請願であるということです。よって、我々が言及する立場にない内容を含むということが一つと、先ほど石川委員もおっしゃったように、この直後に教科書採択を行う関係上、それに影響を及ぼす懸念があることは否定できません。この二つの理由から、本請願を留める動議を提出いたします。

○青蔭委員長 ただいま柿本委員から、本件についての審議を留めることにしてはどうかという動議が提出されました。

この動議について、議題とすることよろしいですか。

(「はい」の声)

○青蔭委員長 それでは、動議を議題として先議いたします。本動議について、質疑、討論がありましたら、よろしくお願いいたします。

(「ございません」の声)

○青蔭委員長 それではこれより、議案第34号について採決いたします。本請願について、「留める」ということで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

○青蔭委員長 異議なしということでございますので、本請願は「留める」ということで処理させていただきます。

◎その他

○青 蔭 続きまして、その他に入ります。
委員長 各課で報告事項がございましたら、順次報告のほど、よろしく願いたします。

それでは、「大和市教育委員会の会議における報告事項に関する申合せに基づく報告について」。犬塚学校教育課長。

○犬 塚 報告事項の申合せの中の一つである「通学路の安全対策に係る要望とそ
学校教育 への対応状況」についてご報告します。

課 長 6月分として、大和小学校から6月22日に1件受理しました。歩行者用信号機について、点滅時間の延長や、音楽の追加などの要望です。対応については、6月23日に庁内関係課に対し、対応と、対応結果の報告について依頼をしており、現在対応中です。以上でございます。

○青 蔭 ありがとうございます。

委員長 質疑・ご意見はございませんか。よろしいですか。

続きまして、「平成26年度就学援助認定誤りについて」。犬塚学校教育課長。

○犬 塚 平成26年度の就学援助について、非認定であるべき世帯を誤って認定
学校教育 と判定していたことが判明しました。対象者は7世帯、10人です。支給
課 長 総額は約83万5千円で、判明したのが平成27年7月6日です。

判明の経緯ですが、今年度の就学援助を判定するにあたり、非認定対象の世帯の所得確認をしていた際に、昨年度認定、今年度非認定という世帯があり、どのような変化があったかを調べていく中で、昨年度も非認定とすべきだったことが発覚したものです。

原因をご説明します。判定においてはまず、市民税課の所得データ等を使用して、システムで一括判定しております。そこで認定、非認定が判定できるものと、データ上要件が整わずに保留となり、担当者が改めて目視で判定するものがあります。その保留となった分の所得判定をするときに、二人に所得があったにも関わらず、片方の所得を見落としてしまった

ものです。

対応としましては、まず対象の全世帯に電話連絡をし、今後の対応についても文書をお送りしております。現在、返金いただく方法等を庁内で調整しており、整い次第返金のお願いをしに各ご家庭を訪問する予定でおります。以上でございます。

○青 蔭 委員長 ただいま報告が終わりました。この件について何かご意見、質疑がございましたら、よろしくお願いいいたします。

○石 川 委員 今後の対応と、これからこのようなミスをどのように防ぐかということが問題だろうと思います。そして、誤りであったにせよ、一度支給されており、本人は誤っていないという認識の中でお金を使っているわけです。

ここで、認定が間違っていたから1年間分、7世帯で約83万円ですから、平均約10万強を返金していただくこととなります。税金を使っていますので、当然返金はお願ひせざるを得ないのですけれども、果たしてそれがすんなりとお理解いただけたのかが心配です。一度もらったのだから、という話にならないかどうか、その辺はいかがでしょうか。

○犬 塚 学校教育課長 一つ目の、今後の再発防止については、マニュアル等を作って、二度と同じことがないように努めていきたいと思っております。

次に、各ご家庭の反応ですが、中には25年度や24年度にも申請しており、そのときは非認定となっていた、そして26年度だけ認定され、おかしいと思っていたというご家庭も幾つかありました。そのような意味では、やはりもらってはいけないものでしたか、というような感じで、電話の上では、すべての世帯がそのように受け入れ、ご理解くださったように思います。

ただ、これから実際に返金となると、各ご家庭を訪問してお話をしてみますが、全額一括での返金は難しいご家庭も多いと思うので、返金方法を検討しながら、進めていきたいと思っております。

○石 川 委員 仮定の話ですけれども、もし、どうしても返金が難しいとなった場合には、具体的にはどのような方法が考えられますか。

○犬 塚 学校教育課長 そこはご理解いただくしかありませんので、足繁く通ってでもご理解いただいて、また返金の方法もよく考えながら、進めていくしかないものと

課 長 思っております。

○篠 田 今回、正しい判定ができなかった世帯があったということで、やはりシステムで一括判定できる部分と、アナログ的に担当者が目視で確認作業をしなくてはいけない部分とが混在する状態というのが、非常に難しいところなのだろうと思います。

また職員の人事異動等で、初めてその業務に携わる方も当然いると思います。きちんと引き継ぎをしていただくことと、二重、三重のチェックというのは、必ずやっていかなければいけないと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

○鈴 木 私も二度とあってはならないことだと思うので、再発防止には十分注意していただきたいと思います。

○犬 塚 はい、承知いたしました。

学校教育

課 長

○青 蔭 よろしいでしょうか。委員からほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

特にないようですので、8月定例会の日程をお知らせ申し上げます。

8月定例会は、8月18日（火）午前10時からを予定しております。

ここで、関係職員以外の退室をお願いします。関係職員として、教育部職員を指定します。

それでは、暫時休憩といたします。

（休 憩）

○青 蔭 再開いたします。

委員長 日程第2（議案第33号）「平成28年度使用中学校教科用図書採択について」を議題といたします。

まずは、大和市教科用図書採択検討委員会からの報告を求めます。藤井指導室長、よろしくお願ひいたします。

○藤 井 平成28年度使用中学校教科用図書採択につきまして、大和市教科用図書採択検討委員会での答申をご報告いたします。

大和市教科用図書採択検討委員会は、大和市教科用図書採択方針に基づ

き、平成28年度使用中学校教科用図書について、文部科学省の「教科書編集趣意書」、神奈川県教育委員会の「調査研究の結果」、調査研究員による「調査研究報告書」、各中学校からの「学校アンケートの結果」、教科書展示会における感想などを参考資料として検討してまいりました。

採択検討委員会は、5月25日、7月6日、同13日に開催し、7月6日、13日につきましては、調査研究員より調査報告についての説明を受けた上で、慎重かつ公正に検討を行いました。

採択検討委員会の検討結果につきましては、大和市教科用図書採択検討委員会報告書にまとめてございます。

なお、報告書には、全発行者についての調査研究報告の概要及び採択検討委員会における主な意見・協議内容などを記載しております。

○青 蔭 委員長 ただいま大和市教科用図書採択検討委員会からの報告をいただきました。これについて、質疑・ご意見等ありましたら、よろしく願います。

また教科書採択については、市民の皆様の関心も特に高いものでございます。審議に当たり、委員の皆さんから、あらかじめご意見があれば願います。

○石 川 委員 教科書採択は、4年間使用する、中学生の教科書を選ぶということで、非常に重要なことでもあります。また5人の教育委員によって最終決定するということが、責任も非常に重大です。そのような中で、私も含めて、私たちは皆、各教科の専門家ではありません。そこで一番重要な、採択に当たっての重要な資料となるのは、検討委員会の報告であろうと思うわけです。現場の教員たちの意見、そのほか県の資料等を検討された中での結果ということで、この結果を重視して進めていくことが妥当だと思います。

子どもたちにとって学びやすい教科書、それから現場の教員にとって教えやすい教科書を、検討委員会で、比較的上位となったものを中心に検討していくのが妥当ではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○鈴 木 委員 私も、石川委員と同じような考えを持っております。大和市の子どもたちにとって、どれが一番良いのかをしっかりと考え、それに加えて私は、基本的には基礎・基本を重視し、分かりやすい写真・イラスト、ユニバー

サルデザイン等についてもポイントとして考えています。また、県内、特に県央地域の動向についても参考とし検討してまいりました。

○篠田 委員 私も同じです。石川委員のおっしゃったように、基本的には採択検討委員会の報告書を基に、併せて学校アンケートの観点ごとの数字や、意見の部分も参考にしました。子どもたちにとって学びやすいということはもちろん、現場の教員が使用しやすい教科書という観点で、アンケートの内容も細かく読ませていただきました。以上です。

○柿本 教育長 私も賛成でございます。採択検討委員会の意見を重視しながら判断したいと思います。

ただ、それ以外のところでも、大和の子どもたちに合っているのではないかという教科書もございましたので、それはそれでまた、幅広く意見を出し合いながら決めていくことができればよろしいかと思っております。

本市の学校教育基本計画の中で「確かな学力」を掲げており、また現在、文部科学省が進めている中では、言語活動や思考判断、表現といった、活動的、能動的な学力が今後ますます求められていくであろうと言われております。そういった意味で、今回、中学校の教科用図書の採択にあたりましては、どのような学力が求められているのか、どのような力を子どもたちにつけていきたいのか、ということを中心に検討していきたいと思っております。大和の子どもたちが主体的に、そしてまた友達と一緒に勉強できる、そのような学習活動にふさわしいものを選んでいきたいと思っております。

○青蔭 委員長 採択検討委員会には、いろいろなことを考え合わせて、報告書を作成していただきました。石川委員の冒頭のご提案は、採択検討委員会の推薦する順位が上位の教科書を中心として考えてはいかがか、ということだったかと存じます。先ほど来、委員の方々のご意見を拝聴しておりまして、各委員とも、採択検討委員会の報告を重視したいとのお話でございました。石川委員、よろしいでしょうか。

○石川 委員 はい、やはり教科書はたくさんありますので、採択検討委員会の推薦が第3順位ぐらいまでの中から具体的に話し合うのが、妥当なのではないかと考えます。

ただ、この教科書はこの点がよかったというような印象などがあれば、もちろん話をするのですが、原則としては大体3位ぐらいまでの教科書を中心に話し合いを進めたらどうでしょうか。

○青 蔭 そのようなご意見が出ました。委員の方々、よろしいでしょうか。
委員長

（「はい」の声）

○青 蔭 では続きまして、採決方法についてお諮りしたいと存じます。
委員長 教科書採択につきましては、市民の方々の関心も非常に高く、より透明性の高い採択とするため、採決方法は、各委員の挙手により採決することとしたいと存じますが、ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声）

○青 蔭 異議なしということでございますので、各委員の挙手により過半数を超えた教科用図書を採択することといたします。

それでは、改めて審議に入ります。審議は1種目ごとに行います。

初めに、国語から審議を行います。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤 井 採択検討委員会では、調査研究員の研究概要を受け、各種目の教科書の
指導室長 検討に当たりました。

先ほど委員の方々のご発言の中で3位までという順位のお話がありましたが、種目によりましては教科書会社が2社しかないものもございます。また多数ある中でも、順位として、必ずしも1位から3位という形ではなく、同順位としてご報告する教科もございますので、あらかじめご了承ください。

それでは、国語につきまして、第1順位は光村図書、第2順位は三省堂、第3順位は東京書籍、以下、教育出版と学校図書が同順位という推薦をいただきました。

光村図書につきましては、学ぶための手段・方法について、分かりやすく説明を加えている。紙のベースが黄色で見やすく、目に優しい。各学年の掲載する漢字数のバランスがよい。報告書より、言語活動が重視されている。コミュニケーション能力を育てる視点がよい。

三省堂につきましては、学ぶための手段・方法について、分かりやすく説明を加えている。生徒の発達段階、社会的状況を反映した題材や、発展的な学習の視点での評価が高い。

東京書籍につきましては、学ぶための手段・方法について、分かりやすく説明を加えている。色が多すぎて戸惑うが、領域ごとに色分けをしている。領域ごとの活動が分かりやすい。

教育出版につきましては、学ぶための手段・方法について、分かりやすく説明を加えている。読み物が多く、1年間で教えるのは難しい。

学校図書につきましては、学ぶための手段・方法について、分かりやすく説明を加えている。写真を使った読み物があり、この章でのねらいが分かる。読み物が多く、1年間で教えるのは難しい。読書活動の紹介が、他社より少ない。

以上が、国語についての報告内容です。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願い申し上げます。

○石 川 委員 この中で、国語はすべて読ませていただきました。どの教科書も本当に一生懸命作られているという感想を持ったわけですがけれども、大和の小学校はずっと光村図書を使用しています。したがって、小学校からの継続性という観点において、今の中学生は内容が入りやすいのではないかということが一つです。

それから、報告書にも記載されていたのですが、生徒が学ぶための手段や方法が分かりやすいのが光村図書だったという気がします。

長年、光村図書は全国でもかなり多くの地域で採用されていて、子どもたちへの魅力ある国語の教科書作りのノウハウが、やはり蓄積されているような気がしました。

そのような意味で、私は光村図書が良いと思います。

○鈴 木 委員 私も同様でございます。光村図書は、特に県央地域ではすべての市町村で使われており、現在の大和市でも使用しています。また写真・イラスト等も適度に配置されているので、私も光村図書がよろしいと思います。

○篠 田 私も光村図書が、特に言語活動の部分において、声の出し方から発表の

委員 ところまで重点が置かれている印象を持ち、非常に良いと思いました。巻末や付録ではなく、「話し合おう」「報告しよう」「思いを伝えよう」と、各单元の中で度々出てくるのは、常に、聞く・話すことの基礎力をつける支えになるだろうと思いました。

読書活動においても、役立つ本も分野別に多く紹介されていて、授業にも取り入れやすい工夫がされ、また読書コラムはとても興味をひく内容のものがありません。

○柿本 先ほど申し上げましたように、子どもたちが主体的に学ぶという点から、使いやすい教科書という視点で見させていただきました。

三省堂と光村図書が、目次の後に1年間の学習の見通し、またその教材でつけるべき力といったものを表にして、非常に分かりやすく数ページを割いて載せております。

これは教師と生徒が授業に入る前に、1年間の中で、この授業、この单元、この教材ではこのような力をつけよう、といったことがはっきりと分かり、その点は素晴らしいと思いました。

光村図書と三省堂、どちらの教科書も、資料編を教科書の後ろに掲載し、そのときの子どもの学習の段階に応じて、発展的な学習なども可能になっております。資料の内容の充実度は、三省堂のほうが上かなと、私は思いました。

ただ、全体的に見ますと、教科書の中で話す・聞く・書くといった領域別の活動では、光村図書の方が丁寧なステップが準備されていて、子どもたち自身が学習者として、そのステップに乗っていけば上手に学習できるというような工夫がされていると感じました。そのようなところから、私は光村図書を推したいと思います。

一方で、学校図書も、全部見た中では、挿絵など、教科書全体の色使いがとても優しいタッチで、なおかつ教材の下に小さな質問や勉強のポイントが書かれており、学校図書も、子どもたちが自主的に勉強するという点については工夫された教科書だと感じました。以上でございます。

○青蔭 ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。

委員長 それでは、国語について採決します。本件について、発行者名を読み上

げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。学校図書、ゼロ。三省堂、ゼロ。教育出版、ゼロ。光村図書、4名。

光村図書が全員賛成でございますので、国語の教科用図書については、光村図書に決しました。

続きまして、書写について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井 書写について、採択検討委員会では、第1順位が光村図書、第2順位
指導室長 が東京書籍、以下、学校図書、三省堂、教育出版が同順位という推薦をいただきました。

光村図書につきましては、子どもたちが使う目線から、資料が充実している。硬筆を扱う割合が高く、重視している。学校アンケートから、先生たちの評価が高い。

東京書籍につきましては、教材の数が豊富である。硬筆を扱う割合が高く、重視している。

学校図書につきましては、硬筆と毛筆を扱う割合が同じである。

三省堂につきましては、毛筆の割合が高い。

教育出版につきましては、硬筆と毛筆を扱う割合が同じ。

以上が、書写についての報告内容です。

○青 蔭 ありがとうございます。細部説明が終わりました。質疑、ご意見等が
委員長 ありましたら、よろしく願いいたします。

○石川 ややもすると、書写というと毛筆、習字が主であるように思われがちで
委員 すけれども、私たちが生活の中で使うのは、基本的には硬筆です。そのような意味で、硬筆の割合が高いということは、とても重要かと思えます。

ただ、それでは毛筆が軽視されてよいかというと、そうではありませんが、光村図書は、比較的硬筆の割合が高いと同時に、毛筆もしっかりしていると考えます。

毛筆の参考手本も見やすく、目に入ってくる形状等がやわらかで、特殊でなく一般的な形であり、目に優しく、視覚的にも良いのではないかと印象を受けました。

各教科書とも工夫はされているのですが、実際に書写で学んだことを日常生活にどう生かすか、というところの作りが、光村図書は丁寧だったと思います。

○篠田 委員 石川委員がおっしゃるように、私も姿勢や筆の持ち方等の写真での解説が、大きくて分かりやすい印象を受けました。

それから、まず表紙をめくると「文字と出会う」という詩があって、桜の写真とともに文字の大切さを教えてくれる、インパクトの強いもので、とても良いと思いました。

○柿本 教育長 毛筆が現在、生活の中でなかなか触れることが少ない中で、どの教科書も、毛筆書写というものは難しくない、というメッセージが込められているように感じました。筆使いや字形といったものを分かりやすく解説する努力が、各教科書とも見られました。

また石川委員からもございましたが、やはり、このような時代背景に鑑み、毛筆だけでなく、硬筆もしっかりと分量を取って練習できるような構成があったと思います。

その中でも、光村図書の教科書が素晴らしいと思ったのは、資料編の中で「様々な生活場面で使う文字」といった、今までにないような視点が打ち出されていたところです。特に、その文字を情報として集める、整理する、発信するといったように、内容ではなくて文字そのものをそのような視点で捉えて構成していたのが、他社にはない特徴であったと思います。

そういった意味で、生活の中での文字、字形を正面から取り上げているところで、今後の子どもたちの生活から書写を捉えれば、光村図書の教科書が一番適しているのではないかと判断いたしました。

○鈴木 委員 私は、3人の委員とは少し違った視点で、光村図書も良いのですけれども、三省堂を推したいと思います。日本の伝統といいますか、毛筆の割合が多く、特に良いと思ったのは、カラフルなイラストやキャラクターで子どもたちに毛筆のよさを知らせているところです。そのような視点も大事かと思います。

○青蔭 委員長 ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。

それでは、書写について採決いたします。本件について、発行者名を読

み上げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。学校図書、ゼロ。三省堂、1名。教育出版、ゼロ。光村図書、3名。

光村図書が賛成3名でございますので、書写の教科用図書につきましては、光村図書に決しました。

続きまして、社会（地理的分野）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井 社会科（地理）について、検討委員会では、第1順位が東京書籍、第2
指導室長 順位が帝国書院、以下、教育出版、日本文教が同順位という推薦をいただきました。

東京書籍につきましては、県報告書のデータからすると、読み物資料の数や地図の数が豊富で、使いやすい。領土に対して、客観的に地形や自然の特徴が書かれている。地形、海流など、自然地理について触れている。資料は極力新しいものを使っている。

帝国書院につきましては、質問しよう、確認しようなど課題が具体的で、取り組みやすい。学校アンケートの評価が高い。領土について、非常にはっきりとした厳しい書き方をしている。日本の領海に侵入した中国船の写真が今にも衝突しようとしているようで気になる。地形、海流など、自然地理について触れている。資料は極力新しいものを使っている。

教育出版につきましては、地形、海流など、自然地理について触れている。人口と都市など地域ごとにテーマが強調されている。資料は極力新しいものを使っている。

日本文教につきましては、経済水域の中の間には挟まれている部分について記述があり、他社は書かれていない。地形、海流など、自然地理について触れている。資料は極力新しいものを使っている。

以上が、社会科（地理）についての報告内容です。

○青 藤 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、
委員長 よろしくお願いたします。

○鈴木 これにつきましては、東京書籍と帝国書院で非常に迷いましたが、特に
委員 帝国書院のほうは、写真やグラフ、資料がよく整理されていることと、重

要な用語では太文字を使うなどの工夫が良かったと思います。

また県央地域においても、現在は多数が帝国書院を使っていることもあり、私は帝国書院を推したいと思います。

○石川委員 私は東京書籍を推したいと思っています。資料が豊富で子どもたちにとって使いやすく、教員も指導しやすいのではないかとということが一つです。

もう一つは、今比較的話題になっている領土問題についても多くのページ数を割いており、それが比較的客観的な記述で、この点についてはそのような視点での取り扱いが良いと思いました。

全体を見まして、東京書籍が使いやすいのではないかと感想を持っております。

○篠田委員 採択検討委員会の第1順位は東京書籍なのですが、学校アンケートの点数を見てみたところ、項目別の観点によっては帝国書院の次に教育出版の点数が高いため、3社の教科書をよく見比べてみました。

教育出版の資料が見やすく、学習のまとめで書き込みがあり、頭に残りやすいよう工夫されているところがとても良いと感じまして、教育出版を選びました。また「地理の窓」というところで、災害や人種差別、環境問題を取り上げ、予備知識を与えている工夫も非常に良いと思いました。

○柿本教育長 私は、東京書籍を推したいと思っております。いろいろな視点がございますが、先ほど申し上げたように子どもたちが能動的な学習に取り組むとしたら、どの記述が一番取り組みやすいかという視点で検討しました。

その中でも、1年生で必ず行う地域調査の単元で、自分たちの地元をどのように見るかという視点が入ってくるわけですが、ここをポイントとして比較してみました。

基本的に地理や社会科というのは、どちらかというと暗記が主であると思われがちなのですが、これからますます地理の学習として、どのような思考ができるようになったのか、どのようなことができる力を獲得できたのか、ということが問われておりますので、そのような視点で見比べてみました。

どの教科書も、この地域調査についても学習者が迷わずにしっかり取り

組めるように工夫されていたと思います。またいろいろな例示についても工夫がされていました。そうした中で一番分かりやすく、一つ一つのステップを丁寧に構成していると思ったのが、東京書籍の教科書だと私は判断いたしました。

このような、子どもたちが主体的、能動的に学習するという視点から全体を見直してみますと、東京書籍の教科書が最も活動から学習に結びつける構成でした。活動が先にあつて、考えたり活動したり、それをまた学習に結びつけるという視点が、他の教科書よりもはっきりしていると考え、東京書籍を推したいと思います。

一方、帝国書院の教科書も視覚的にはよく整理されており、パッと見たときに目の中に入りやすい点は、素晴らしいと思いました。

○青 蔭 ありがとうございました。ほかにはよろしいですか。

委員長 それでは、社会（地理的分野）について採決します。本件の発行者を読み上げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、2名、教育出版、1名。帝国書院、1名。日本文教、ゼロ。

これまでの票は過半数に達しておりません。

私は、東京書籍がよいと思います。この時点で東京書籍が賛成3名となりましたので、社会（地理的分野）の教科書については、東京書籍に決しました。

続きまして、社会（歴史的分野）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長、よろしく願いいたします。

○藤 井 社会（歴史的分野）について、採択検討委員会では、第1順位が東京書籍、第2順位が帝国書院、第3順位が教育出版、以下、清水書院、日本文教、自由社、育鵬社、学び舎が同順位という推薦をいただきました。

指導室長

東京書籍につきましては、原爆ドームの保存と平和の願いというコーナーがあり、子どもたちに平和について考えさせるところがよい。学校アンケートより、先生たちの評価が高い。内容的に適切であり、バランスがよい。系統的な部分でも、他社よりよい。章の終わりに、まとめのページがある。

帝国書院につきましては、章の終わりのページが見開きで見やすい。

考えさせる内容を意識している。タイムトラベルという各章に見開きがあり、ユニークで工夫している。章の終わりに、まとめのページがある。

教育出版につきましては、章の終わりのページが見開きで見やすい。考えさせる内容を意識している。章の終わりに、まとめのページがある。

清水書院、日本文教、自由社、育鵬社につきましては、章の終わりにまとめのページがある。

学び舎につきましては、教科書展示会の評価は高いが、読み物としての評価が高いと思われる。大きさが大きく、教科書としての使い勝手がよくない。章の終わりに、まとめのページがある。

以上が、社会（歴史的分野）についての報告内容です。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いたします。

○篠 田 委員 歴史につきましては、採択検討委員会でも、学校の教員の点数においても、東京書籍が一番高く、第1順位となっています。

東京書籍は、資料が豊富で、配置が良いので見やすく、理解しやすい内容だと思いました。また各単元で、左ページの下に時代の物差しのようなものがあり、今学んでいる時期が分かるようになっている工夫も良いと感じ、東京書籍を推したいと思います。

○柿 本 教育長 社会的にも注目されている教科でございまして、採択検討委員会の意見を参考にしながらも、私なりに視点を整理して検討いたしました。

私が重視したのは次の三点です。一つは、科学的に検証された歴史の事実が系統的に、かつ分かりやすく提示されているか。二つ目は、資料が豊富で実証的な教科書になっているか。三つ目は、知識の習得だけでなく、言語活動などのアクティブな学習が可能な教科書か。このような三つの視点を中心に検討しました。

こうした中で、一番ふさわしいのは東京書籍であると私は判断いたしました。導入部分では、「歴史スキルアップ」のコーナーで、時代や年代について取り上げて、必要な基礎知識がはっきりと分かりやすく並べられ、歴史の学習が始まりやすいように工夫されていました。

また、「ワーク」により、その知識を定着させる組み立て方もされてい

ました。

「歴史スキルアップ」だけでなく、「調査の達人」「歴史にアクセス」「女性コラム」などの様々なコーナーが、本編としての教科の中身と併せ、横に設けられています。そうしたコーナーを使いながら、歴史の学習が受け身にならない工夫がされているところが、本市の子どもたちにとっては、とても力になっていくのではないかと判断し、私は東京書籍を推したいと思います。

○石川 委員 私も東京書籍を推したいと思います。相対的にバランスが良い教科書ではないかと思えます。いろいろな部分で、部分的に詳しい教科書は他にもありました。ただ、東京書籍が全体的にバランス良く配置されているように感じました。

また、子どもたちがこの教科書を使ったときに、自分で何かを学ぶ視点というものがはっきりしていると思えます。自分で考えさせる、いろいろな工夫がされています。

それから、子どもたちに対しいろいろな図をどう与えるかは、教員にとっても大事なことで、読み物だけではなく、適切な図や写真などを使っています。写真が多いから良いというわけではなく、その写真の中身がいかにか適切かというのが重要なポイントだと思います。

○鈴木 委員 それぞれ優劣がつけがたいので、どれが一番というのは非常に迷いましたけれども、冒頭に申しましたとおり、分かりやすさや基礎基本を重視していること、また小学校からの継続性という点で考えますと、東京書籍を挙げたいと思えます。

特に、小学校からの学習内容をイラスト入りで記述しているところを評価しています。また、資料も豊富に掲載されており、東京書籍が良いと思っています。

○青蔭 委員長 ほかにご意見等はございますか。ないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは社会（歴史的分野）について採決いたします。

本件について発行者を読み上げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、4名。全員でございますので、社会（歴史的分野）の教科用

図書については、東京書籍に決しました。

続きまして、社会（公民的分野）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井 社会（公民的分野）について、採択検討委員会では、第1順位が東京書籍、第2順位は同列3社で日本文教、帝国書院、教育出版、以下、清水書院、自由社、育鵬社が同順位という推薦をいただきました。

東京書籍につきましては、文言を分かりやすく丁寧に、図やグラフなど理解させようと様々な工夫をしている。考えさせる内容を引き出すところや、言葉の説明が丁寧である。写真や資料の数が豊富である。言語活動について触れている。

日本文教につきましては、資料が豊富であるため、自分が考えていく学習として、生徒が活用しやすい。グラフの数が多。言語活動について触れている。

帝国書院につきましては、今まで出てきた地理、歴史を扱い、総まとめとなっている。言語活動について触れている。

教育出版につきましては、政治と憲法を分けている。ページ数でも多く使っている。言語活動について触れている。

清水書院、育鵬社につきましては、言語活動について触れている。

自由社につきましては、資料の数が少ない。言語活動について触れている。

以上が、社会（公民的分野）についての報告内容です。

○青蔭 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、委員長 よろしく願いいたします。

○篠田 こちらも、採択検討委員会で第1順位の東京書籍を選びたいと思います。写真や資料が豊富で配置も良く、全体を通して色の使い方がシンプルで、すっきり色分けされており、重要語句が分かりやすいと思いました。

「公民にアクセス」は、幅広い知識を得ることができる、現代の課題等を深く考えられるものになっていると思います。

ただ、大変悩んだところで、教育出版の巻頭が「公民とは」という始まりで、学び方や新聞の活用法が詳しく書かれていて、非常に魅力を感じた

ところもありました。

○石川 委員 私も非常に迷ったのですが、やはり東京書籍を推したいと考えています。採択検討委員会の報告にもありますように、文言が分かりやすく、図やグラフ等、子どもたちに理解させようと努力している点がとても良いと思います。要するに、先ほどの歴史の教科書も同様ですが、子どもたちがどう学ぶかという観点で教科書が作られていると思います。

もう一つ、全体的にバランスが良く、恣意的でなく、きちんと事実に基づいて作られているのが、最終的には東京書籍だと思いました。

○柿本 教育長 公民という教科は、大和市の子どもたちにとっては、これから社会の中でどのように生きていくか、ということに直結する教科であり、とても重要なものです。そのために内容も多岐にわたるものであると認識しております。

例えば、社会と自分自身の関わり方、憲法や人権、地方自治や政治の仕組み等の知識はもちろんですが、経済活動や消費といったことを考える力もつけなければなりません。またグローバルな社会にあって、国際社会における自国、日本の役割を意識したり、日本や地域の伝統や文化を大切にしたりする態度も養わなければならない、本当に内容が多岐にわたるものです。

こういった力を実践的に身につけていくということ、社会的に実践的な姿勢を育てるといったことが、公民の教科書ではより求められるのではないかと、私は考えております。

そのような観点から、私も東京書籍を推したいと思います。理由としましては、知識がよく整理されているとともに、言語活動を中心に考える教材の配置が非常に上手くされていると思ったからです。

知識の部分では、「公民にアクセス」というコーナーで、多様な知識が提供され、幅広く知ることができる。また、その後には今度は、様々なトラブルや社会問題を考えさせる事柄が出てきて、その中で実践的な態度に結びつく期待の持てる教材がたくさん載せられておりました。

それから、「もっと深めよう」というコーナーもあり、さらに自分自身が深く考えることができる構成になっています。中学3年生が扱う公民と

しては、こういった実践的な力を求めたいことから、私は東京書籍が良い
とっております。

○鈴木委員 私も、歴史と同じく非常に悩みました。現在使用されていて、学校アンケート、採択検討委員会でも上位を占めている、東京書籍を推したいと思
います。特に、私が一番大事だと思っているディスカッションやプレゼン
テーション、ディベートなどで考えさせるというポイントを高く評価して
います。

○青蔭委員長 ありがとうございます。ほかにご意見、質疑がございますか。よろし
いでしょうか。

それでは、社会（公民的分野）について採決いたします。

本件について発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めま
す。

東京書籍、4名。

東京書籍が全員でございますので、社会（公民的分野）の教科用図書に
つきましては、東京書籍に決しました。

続きまして、地図について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井指導室長 地図について、採択検討委員会では、第1順位が帝国書院、第2順位が
東京書籍という推薦をいただきました。

帝国書院につきましては、県の報告書から、図や表の数が多く、地図な
ので重視したい。歴史等との関連性がある。学校アンケートでも評価が高
い。

東京書籍につきましては、写真とか絵が多い。色合いが目に優しい。

以上が、地図についての報告内容でございます。

○青蔭委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、
よろしくお願いたします。

○柿本教育長 私は、帝国書院を推したいと思えます。地図帳というのは、子どもたち
が興味を持って地図を見るための工夫が非常に大事だと思いますが、この
帝国書院の地図にはそういった工夫があると思えました。

例えば、アジア州の資料というものは、立体的な地図の中にイラストが

上手に入っていて、全体的に子どもたちが引きつけられて分かりやすい。そういった興味を引く工夫がされていました。

また「地図を見る目」「やってみよう」など、学習する者を意識したポイントが押さえられており、地図を見る者が学習に入りやすいような準備がされていて、子どもたちがその目的を持って地図を見ることができると感じました。そのような力が養われていくのではないかと思い、帝国書院を推したいと思います。

○石川 委員 私も帝国書院を推薦したいと思います。地図については、2社だけですけれども、いずれも長年作ってきた会社であり、ノウハウは確立されていると思います。

地図は、基本的に資料の部分が多いので、図や表の数が多いというのは、すごく強みであると思いました。子どもたちが調べ学習をするに当たって、参考になるものがたくさんあることは、とても大事なことです。

また最近では、子どもたちはすぐインターネットを使って調べちゃうのですけれども、やはり資料を見て作業することは非常に大切なので、帝国書院を推したいと思います。

○篠田 委員 東京書籍の、写真の豊富などところが良いと、最初は思っていたのですけれども、地図という教科の性質から、資料等について皆さんと同じように考え、また報告書の結果からも、帝国書院が良いと思っております。

○鈴木 委員 私も、両者とも非常に素晴らしいとは思いますが、その中で特に最初の3ページのインパクトのある見開きや、いろいろな統計や索引などが充実しているという点で、東京書籍を推したいと思います。

○青蔭 委員長 ほかにご意見等はございますか。よろしいでしょうか。
質疑を終結いたします。

それでは、地図について採決いたします。本件について発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、1名。帝国書院、3名。

帝国書院が賛成3名でございますので、地図の教科用図書につきましては、帝国書院に決しました。

ここで、暫時休憩といたします。会議再開は、11時20分とさせてい

たきますので、よろしく願いいたします。

(休 憩)

○青 蔭 再開をいたします。

委員長 改めて申し上げますが、傍聴人の方は、議事につきまして可否を表明したり、審査に支障をきたしたりすることのないよう、念のため申し上げます。

続きまして、数学について審議を行います。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤 井 数学について、採択検討委員会では、第1順位が教育出版、第2順位が
指導室長 啓林館、第3順位が日本文教、以下、東京書籍、大日本図書、学校図書、
数研出版が同順位という推薦をいただきました。

教育出版につきましては、既習事項の確認が各章ごとにある。難しいものではなく、基礎になるようなものが、見開き1ページでまとめられ使いやすい。学校アンケートから、基礎基本の定着が一番評価されている。確かめ、自由課題、実力アップなど生徒の状況に合わせて活用できる。各章のはじめの導入の部分で、何か例示する問題で、子どもたちの興味・関心を持たせるための工夫をしている。

啓林館につきましては、学校アンケートでの先生たちの評価が、日本文教と同数で一番である。学校アンケートの内容が適切であることや、生徒の発達段階に即している。各章のはじめの導入の部分で、何か例示する問題で、子どもたちの興味・関心を持たせるための工夫をしている。

日本文教につきましては、身の周りの課題、操作可能な課題など、導入に関して工夫されている。学校アンケートでの先生たちの評価が、啓林館と同数で一番である。各章のはじめの導入の部分で、何か例示する問題で、子どもたちの興味・関心を持たせるための工夫をしている。

東京書籍につきましては、振り返り、他教科とのつながり、数学的な歴史に触れている。各章のはじめの導入の部分で、何か例示する問題で、子どもたちの興味・関心を持たせるための工夫をしている。

大日本図書につきましては、振り返り、他教科とのつながり、数学的な歴史に触れている。多面的な解き方が載っていて、子どもの思考を深めら

れない。各章のはじめの導入の部分で、何か例示する問題で、子どもたちの興味・関心を持たせるための工夫をしている。

学校図書、数研出版につきましては、各章のはじめの導入の部分で、何か例示する問題で、子どもたちの興味・関心を持たせるための工夫をしている。

以上が、数学についての報告内容です。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

○鈴 木 委員 今回の採択の中で、一番迷った教科です。特に数学に関しては、学校図書、教育出版、啓林館の三つが、優劣つけがたいものでした。

その中で、私は啓林館を推したいと思います。「MathNaviブック」という別冊が非常によくできていて、小学校からの内容との関連も書かれており、振り返り、考え方、ヒント等よく書かれているので、良いと思いました。

少し難しい内容かとも思っておりますけれども、教員も別のプリントを作ったり、授業力でカバーしたりしていったらいいと思います。

○石 川 委員 私は、日本文教を推したいと思います。大和の子どもたちにとってどのようなものが分かりやすいか、それから、どこに力点を置いているかを見た場合に、日本文教のものは比較的、基礎基本を中心としていると思いました。また導入部分も、各社同じところを開いてみると、実際に教師が教えるときに、日本文教が一番、子どもたちの興味を引く導入の仕方がされているような気がしました。そのような意味で、日本文教を推したいと思います。

大和の子どもたちにとっては、今の状況の中ではやはり基礎基本をしっかり身につけることが重要な気がいたします。

○篠 田 委員 私も、石川委員と同じで日本文教を推したいと思います。報告書にもありますように、学校アンケートでの評価が一番なのが啓林館と日本文教ということでもあります。採択検討委員会も、基礎基本の定着を重視しているのと同様に、大和の生徒に合った基礎基本の定着が図れる教科書ということと考えました。教育出版も基礎基本が重視されているのですけれども、

日本文教と比較したとき、空間、余白が少なく、文字が多い印象を受けました。

日本文教は、図形等の色使い、色分けが分かりやすく、生徒が扱いやすいのではないかと思います、日本文教が良いと思います。

○柿本 教育長 私は、教育出版を推したいと思っております。子どもたちが小学校から中学校に上がり、算数から数学という教科に変わって、3年間の中で好き・嫌い、得意・苦手、分かる・分からない等、差が広がる教科の一つだと思います。そこを何とか、少しでも埋めてくれるような教科書はないかという観点で、数学の教科書を見てまいりました。

なぜ、分からないところが残ってしまうかという、数学は積み上げ型で、スパイラル的に振り返ることがなかなか難しい教科です。教育出版の教科書は、各章の始めに、その章の学習に関係する知識や理論の復習が、他社より充実して載っていると思いました。

少しつまずいた生徒も、新しい章に入る前に振り返って確認することで、少しでも新しい章に入っていく意欲が湧くのではないかと考えて、私は教育出版がよろしいのではないかと思います。

また、解き方を解説する横に、ヒントや、他の解き方もあるということが載っているのも教育出版の特徴の一つです。ただ基礎だけではなく、自分なりに問題に取り組む姿勢がそこから育成できるのではないかと感じました。以上から、私は教育出版を推したいと思います。

○青蔭 委員長 ありがとうございます。ほかにご意見・ご異議等はございますか。よろしいでしょうか。

質疑を終結いたします。

それでは、数学について採決いたします。本件について、発行者名を読み上げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。大日本図書、ゼロ。学校図書、ゼロ。教育出版、1名。啓林館、1名。数研出版、ゼロ。日本文教、2名。

日本文教が2名、教育出版が1名、啓林館が1名でございます。私は総合的に考えまして、日本文教を推させていただきます。

よって、日本文教が賛成3名になりましたので、数学の教科用図書につ

きましては、日本文教に決しました。

続いて、理科について審議を行います。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井 理科について、採択検討委員会では、第1順位が東京書籍、第2順位が
指導室長 啓林館、以下、大日本図書、学校図書、教育出版という推薦をいただきました。

東京書籍につきましては、実験のページと結果・まとめが同じ見開きのページになっていないのがよい。春の観察のものが、最初にあり年間の計画がしやすい。学校アンケートでの科学的な思考力・判断力・表現力の観点での評価が高い。東日本大震災について扱い、生活との関連が身近になっている。実験の手順のところに、安全面への配慮についての記述があり、よい。日常との関連した記述において、家庭での身近な理科としてよい。

啓林館につきましては、実験から結果が分からないように、まとめのページが別になっている。本冊と別冊がリンクしていて、内容もよい。学校アンケート、3番その他の内容が充実している。1年生の教科書の始まりが大地や地球に関する内容となっている。

大日本図書につきましては、春の植物観察のものが最初にあり、年間の計画がしやすい。

学校図書につきましては、東日本大震災について扱い、生活との関連が身近になっている。実験について熟知している方が作成している。1年生の教科書の始まりが大地や地球に関する内容となっている。

教育出版につきましては、1年生の教科書の始まりが大地や地球に関する内容となっている。

以上が、理科についての報告内容です。

○青 蔭 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、
委員長 よろしく願いいたします。

○鈴木 この中では東京書籍、学校図書、啓林館の三つから検討しました。結論
委員 から申しますと、東京書籍がよろしいと思います。理由といたしまして、家庭でもできるような簡単な観察や実験が多数あるということと、身近な

実験を繰り返して、興味を持たせる内容が書かれており、それらを評価して東京書籍がよろしいと思いました。

○石川 委員 私も、東京書籍と啓林館とで迷ったのですが、結果として東京書籍を推したいと思います。單元ごとにまとめのページがあって、子どもたちにとって最終的に学習しやすいのではないかと思います。実験と結果が同じページにありますと、実験している最中に結果が分かかってしまいますので、その辺の工夫もされている気がします。單元ごとのまとめのページは、他社にもあるのですが、特に考えられてできていると感じました。

啓林館の「マイノート」という別冊はなかなか良いとは思いますが、多くの中学校で、実験のノートは別に買ったり、教員の手作りだったり、そのような工夫をされているようです。既成のものがあるに越したことはありませんが、それに囚われてしまうこともありますので、それは教員の工夫で何とでもなると期待しています。以上です。

○篠田 委員 採択検討委員会からの報告も、学校アンケートでも東京書籍が高評価であり、私もバランス的に東京書籍が一番良いと考えております。

○柿本 教育長 私も、啓林館と東京書籍で随分悩みました。啓林館の別冊「マイノート」は、内容も「サイエンスアプローチ」と「ステップアップ」というように、一人一人の習熟度に合わせて応用できるところが素晴らしく、言語活動の要素についても、随分入っていると思いました。

ただ、東京書籍が素晴らしいと思ったのは、例えば理科の実験の中で、考えるステップを作っています。理科の実験の前段階で、予想を教科書の中に書き込みます。書き込んだことと、やがて出てくる結果が比較できるようになっています。つまり、自分が参加する構成になっており、そういった意味で科学的な思考に子どもたちを巻き込む工夫がなされている点が良いと思いました。よって、私は東京書籍を推したいと思っております。

○青蔭 委員長 ありがとうございます。委員の方、ほかにご意見・ご質問はございますか。よろしいでしょうか。

質疑を終結いたします。

それでは、理科について採決いたします。本件について発行者名を読み上げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、4名。

全員賛成でございますので、理科の教科用図書につきましては、東京書籍に決めます。

続きまして、音楽（一般）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井 音楽（一般）について、採択検討委員会では、第1順位が教育出版、第2順位が教育芸術社という推薦をいただきました。

指導室長 教育出版につきましては、鑑賞のページで説明の字が大きく子どもたちが理解しやすい。共通事項で学んでほしいところが大きく載っているため使いやすい。音域で考えた場合、共通教材の取り扱いが発達段階に合っている。

教育芸術社につきましては、鑑賞のページで説明の字が小さく、間隔がつまっているので、内容が入りにくい。共通教材で、1年生に浜辺の歌を教えるのは、音域的にも拍子的にも難しい。

以上が、音楽（一般）についての報告内容です。

○青 蔭 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、委員長 よろしくお願ひします

○篠田 採択検討委員会では、第1順位が教育出版ではありますが、所見を見ると、構成表記でのプラス面が大きな理由になっているかと思ひます。

委員 私は、結論から申しますと、二つを比べてみたときに、教育芸術社が良いと思ひました。基礎知識を習得しやすい点と、また学校アンケートを項目別に見たところ、教員が取り上げたい題材が比較的多いように見受けられた点、そして歌を歌うときの発声や姿勢について取り上げている箇所が2年生以降に多いという点から、教育芸術社を選びました。

○柿本 私も、実は教育芸術社を推したいと思ひます。教育出版は、何よりも教科書の1ページ1ページの写真や色使いがきれいに仕上がっていて、本当に見やすいと感心いたしました。子どもたちが想像を膨らませながら歌うことができるように思ひますし、楽譜もとても見やすかったです。

ただ、教育芸術社のよろしいところは、それとは違ひ、まず目次に当たる「音楽学習マップ」というものが最初にござひますが、それぞれの学習

の目当てごとに、それぞれの教材の位置づけがはっきりと分かるようになっていました。教師と生徒が、学習の見通しを立てやすいよう工夫されていると思います。

また1年生の初めでは、小学校で学習した音符や記号の復習にゲーム感覚で取り組めるなど、小中学校の接続にも配慮されていると思いました。

また篠田委員からもございましたが、発声や曲の構成などで詳しい教材が準備され、歌うこと、楽曲に対する見方が、子どもたち自身、深まっていくのではないかと思います、私は教育芸術社を推したいと思います。

○石川委員 私は、教育出版を推したいと思います。2社のうちどちらかとなりますが、視覚的に、開いたときに教育出版がよくできていると感じました。

採択検討委員会の報告の中の、鑑賞のページで説明の字が大きく、子どもたちが理解しやすい、共通教材が発達段階に合っているという意見も参考になりました。

○鈴木委員 私も、どちらか迷ったのですけれども、結論を申し上げますと、教育出版です。特に、写真等が的確でインパクトがあり、県央地域でも教育出版が多く使われて、現在の大和市でも使われていることから、教育出版を推したいと思います。

○青蔭委員長 ほかにご意見等はございますか。よろしいでしょうか。

ほかにないようでございますので、質疑を終結いたします。

それでは、音楽（一般）について採決いたします。

本件について発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

教育出版、2名。教育芸術社、2名。

それぞれ2名ずつの賛成の挙手がありました。ここで、私は総合的に考えまして、教育出版が良いと思います。教育出版が賛成3名となりましたので、音楽（一般）の教科書につきましては、教育出版に決しました。

続きまして、音楽（器楽合奏）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長、よろしく願いいたします。

○藤井指導室長 音楽（器楽合奏）について、採択検討委員会では、第1順位が教育出版、第2順位が教育芸術社という推薦をいただきました。

教育出版につきましては、ギターのタブ譜が入っている。ギターを将来行うのによい。ギターとピアノのコード表がついている。

教育芸術社につきましては、ギターのコード表のみ載っている。

以上が、音楽（器楽合奏）についての報告内容でございます。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願ひ申し上げます。

○石 川 委員 私は、器楽合奏と、この前の音楽（一般）と、教科書が異なっても構わないとは思いますが、編集の統一性や、同じ教員が教えることから考えると、やはり同じ出版社のほうが扱いやすいのではないかと考えます。

それから、採択検討委員会の報告の中に、楽譜についての所見があり、丁寧に作られているのではないかと考えました。

○篠 田 委員 器楽合奏の教科書二つを見たときに、姿勢や音の出し方等、写真での表し方が非常に分かりやすく丁寧であると思ったのが、教育芸術社です。

音楽（一般）と発行者が変わってしまうということもありますが、種目ごとの採択ですので、教育芸術社をこのまま選びたいと思います。

○柿 本 教育長 私は、先ほど教育芸術社を推したのですが、音楽（一般）で採択されたのが教育出版ということで、やはり器楽合奏と一般の編集がつながる方が、教師も生徒も扱いやすいし、学びやすいだろうと思いますので、私は教育出版を推したいと思います。

○鈴 木 委員 非常に迷い、音楽（一般）と異なる発行者で良いかどうかと思うのですが、器楽合奏については、教育芸術社の方が上であるように思います。県内他市でも、発行者が異なるところもありますから、教育芸術社を推したいと思います。

○青 蔭 委員長 ほかに質疑、ご意見等はございますか。よろしいでしょうか。

委員長 質疑を終結いたします。

それでは、音楽（器楽合奏）についての採決をいたします。本件について発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

教育出版、2名。教育芸術社、2名。

同数でございます。私は、総合的に考え、教育出版が良いと思います。教育出版が賛成3名となりましたので、音楽（器楽合奏）の教科用図書に

については、教育出版に決しました。

続きまして、美術について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井 美術について、採択検討委員会では、第1順位が光村図書、第2順位が
指導室長 日本文教、第3順位が開隆堂という推薦をいただきました。

光村図書につきましては、比較的技法が載っていて、資料集、補助教材
がなくてよい。技法が載っているため、子どもたちへの指導がしやすい。
鑑賞について、原寸大で載せてあるところが多く、作品の大きさが分か
る。

日本文教につきましては、3冊になり、大きさも大きくなって持ちにく
い。鑑賞について、紙質が良く、視覚的に見て指導しやすい。デザインの
に、生徒に取り入れやすい。

開隆堂につきましては、作業工程よりも、作品が多く載っている。

以上が、美術についての報告内容です。

○青 蔭 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、
委員長 よろしく願いいたします。

○鈴木 私は、開隆堂、光村図書、日本文教、それぞれ良いところはたくさんあ
委員 ると思うのですが、光村図書を推したいと思います。

理由として、日本の伝統的な技法の職人による作業手順や技術が採用さ
れている点が非常に良く、デザインの的にも明るく平和とのつながりを意識
した作品を多く載せているため、光村図書が良いと思います。

○石川 私も光村図書を推したいと思います。日本文教は、やはりサイズが大き
委員 くて、他の教科書と違った版になりますので、やや使い勝手が悪いのでは
ないかという気がします。版が大きいということは写真も大きいので、美
術の教科書として良い面もあるのですが、実際に毎日子どもたちが使うに
は、やはり少し大きい気がいたしました。

光村図書については、技法が重視されている点で、子どもたちに分かり
やすいと思いました。

○柿本 私も、光村図書と日本文教で随分悩みました。日本文教は、言語活動、
教育長 子どもたちがそれぞれ作品を見合ったり、意見を出し合ったりする活動が

教科書の中にしっかりと位置づいているのが特徴だと思いました。

また光村図書は、子どもたちがそれぞれ取り組む手順が非常に分かりやすく、写真や解説等を交えて説明されているところが特徴的だと思いました。

総合的には、私は光村図書の方が、子どもたちにとっては意欲を引き出す構成になっていると判断いたしまして、光村図書を推したいと思います。

○篠田委員 私も、光村図書の教科書を推したいと思います。大和で行われている美術鑑賞の点でも多く取り上げられていました。日本文教でも取り上げられていて、とても悩んだのですけれども、やはりその他の教科書の内容、魅力ある作品が多いということから、光村図書を選びました。

○青蔭委員長 ありがとうございます。他にご意見はございますか。よろしいでしょうか。

質疑を終結いたします。

それでは、美術について採決いたします。本件について発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

開隆堂、ゼロ。光村図書、4名。

光村図書が全員でございますので、美術の教科用図書については光村図書に決しました。

続きまして、保健体育について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤井指導室長 保健体育について、採択検討委員会では、第1順位が東京書籍、以下、大日本図書、大修館書店、学研教育みらいが同順位という推薦をいただいております。

東京書籍につきましては、授業の流れがはっきりしていて、学習がしやすい。終わった後の振り返りやまとめが細かくてよい。問題解決能力を育成するにふさわしい内容や思考力、判断力等、先生たちの評価が高い。

大日本図書につきましては、終わった後の振り返りやまとめが細かくてよい。保健体育科では、性差関係ないと思うが、表紙が、なぜ女性だけなのか理由がわからない。

大修館書店につきましては、終わった後の振り返りやまとめが細かくてよい。

学研教育みらいにつきましては、終わった後の振り返りやまとめが細かくてよい。薬物、エイズ、メンタルの部分が丁寧に書かれている。

以上が、保健体育についての報告内容です。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いいいたします。

○篠 田 委 員 こちらも非常に悩みましたが、結論から申し上げますと、学研教育みらいを選びました。従前も学研教育みらいを使用していますが、評価が下がって今回、学校のアンケートでも東京書籍となっております。ただ、神奈川県調査報告を見たところ、前回の教科書より資料数も大幅に増えていて、全体のページ数も東京書籍と同等にまで改善されているように思いました。何より、報告書にもあります薬物、エイズ、メンタルの部分が丁寧であるというのは、生徒の将来に関わる大事なところであると判断しました。

学研教育みらいの資料の内容も、神奈川県グラフや写真が多く掲載されていて、犯罪防止の通報装置の写真で大和が取り上げられている点も、印象に残ったところではあります。

○石 川 委 員 私も、学研教育みらいを推したいと思います。どの教科書もとてもよくできていて、考えられているとは思いますが、まず今まで使っていた教科書の継続性ということが一つあります。

それから、まとめ等が細かくて子どもたちが学習しやすく、また薬物、エイズ、メンタルが丁寧に書かれているという報告もあります。その辺が他の教科書よりも評価できると思いました。

○鈴 木 委 員 私は東京書籍を推したいと思います。理由として、イラストが豊富であることと、キーワードがゴシック体を使って見やすいことを評価しました。

○柿 本 教育長 私は、学研教育みらいを推したいと思います。篠田委員、石川委員と同じく、子どもたちがこれから自分の健康や、特に最近は体だけではなく、精神的なことを含めた現代的な保健についても考えていくと、採択検討委

員会の所見にもあるように、薬物、エイズ、メンタルの部分も、しっかり取り上げていかなければいけない問題の一つであると思います。それと、継続性ということから、私は学研教育みらいを推したいと思います。

ただ、東京書籍も、自分たちが勉強するという角度から見たときに、バランス良く、子どもたちのステップが作られていると感じました。

○青 蔭 ほかには質疑、ご意見等はございますか。よろしいでしょうか。
委員長 ないようですので、質疑を終結いたします。

それでは、保健体育について採決いたします。本件について発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、1名。大日本図書、ゼロ。大修館書店、ゼロ。学研教育みらい、3名。

学研教育みらいが賛成3名ですので、保健体育の教科用図書については、学研教育みらいに決しました。

続きまして、技術・家庭（技術分野）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤 井 技術・家庭（技術分野）について、採択検討委員会では、第1順位が東京書籍、第2順位が開隆堂、第3順位が教育図書という推薦をいただきました。
指導室長

東京書籍につきましては、図や表、参考資料の数、写真の数が多く掲載されているので見やすい。情報セキュリティの項目についての扱いの量が増え、教えやすく感じる。学校アンケートの生活と技術とのかかわりについて理解を深める内容の評価が高い。技術を適切に評価し活用する態度をはぐくむ学習題材を取り上げている箇所数が少ない。

開隆堂につきましては、学校の先生方の評価が高い。技術を適切に評価し活用する態度をはぐくむ学習題材を取り上げている箇所数が少ない。

教育図書につきましては、生活と技術とのかかわりについて理解を深めるよう配慮されていることについて評価が低い。技術を適切に評価し活用する態度をはぐくむ学習題材を取り上げている箇所数が少ない。

以上が、技術・家庭（技術分野）についての報告内容でございます。

○青 蔭 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、

- 委員長 よろしく申し上げます。
- 鈴木委員 私は、東京書籍を推したいと思います。理由は、どの内容につきましても、学習のP D C Aサイクルを用いて、それを意識する効果を発揮している点でございます。また、防災手帳や安全衛生マークについても示されており、東京書籍が良いと思います。
- 柿本教育長 3社の教科書を比較してみると、特にエネルギー変換の単元などでは、内容で強調している点に違いがあると感じました。例えば教育図書では、エネルギーを取り出す技術として、蒸気機関、発電の仕組み、または発電の種類が詳しく説明されています。開隆堂では、一次エネルギーから二次エネルギーへなど、エネルギー資源に関する記述が詳しいように思いました。また東京書籍の教科書では、エネルギー変換効率や送電・配電にページ数を割いております。強調する点が、この3社は随分違うと感じながら見ておりました。
- 子どもたちのこれからの生活や、社会との関わりの観点からこれらを比較してみると、私としては、東京書籍の内容が生きた知識、生きた学びとして評価できると思いました。東京書籍は、技術の評価・活用につながるものとして、生活に生かそうという活動が準備されており、子どもたちの生活と結びつく学習を提供しようとする姿勢がよりはっきりしていると思いました。
- 篠田委員 私も東京書籍を選びました。初めの案内のところで、問題解決する道筋としてという項目で、生活の中から課題を見つけ、実践を通して解決し、生活に生かしていくプロセスを見開き2ページで掲載しているところがとても良いと感じました。
- 石川委員 私も東京書籍を推したいと思います。写真や図版が多く、子どもたちにとって見やすいと思います。それから、情報セキュリティの項目についての分量が増え、教えやすいとの報告があります。教員が教えやすいという観点で評価も高いようなので、東京書籍と考えております。
- 青蔭委員長 ありがとうございました。他にはよろしいでしょうか。
- 質疑を終結します。
- それでは、技術・家庭（技術分野）について採決いたします。本件につ

いて発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、4名。

東京書籍が全員でございます。よって、技術・家庭（技術分野）の教科用図書につきましては、東京書籍に決しました。

続きまして、技術・家庭（家庭分野）について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

- 藤井指導室長 技術・家庭（家庭分野）について、採択検討委員会では、第1順位が東京書籍、第2順位が開隆堂、第3順位が教育図書という推薦をいただきました。

東京書籍につきましては、他教科とのリンクの部分があり、教える方としては引き出しになる。他の教科書会社にはないところである。文化の関係の様々な資料が充実している。

開隆堂につきましては、文化の関係の様々な資料が充実している。言語活動の設定が多いが、家庭科は実習の時間なので、教師がどう扱うかが大切である。

教育図書につきましては、文化の関係の様々な資料が充実している。

以上が、家庭科についての報告内容でございます。

- 青蔭委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしく願いいたします。

- 鈴木委員 私は、東京書籍を推したいと思います。職業のプロフェッショナルのメッセージと、職業感を育成させるキャリア教育の実現を図っている点が一番のポイントです。

- 石川委員 私も、東京書籍が使いやすさの点で良いと思います。家庭科というのは、理科などの他の教科・分野と総合的に関連する教科だと思います。他教科とのリンクが非常に良いと感じました。

- 篠田委員 私も東京書籍で、写真が良く、とても興味を引く内容であったことから選びました。

料理におけるだしの取り方で、東京書籍は、煮干しのだしの取り方があったところが、特に印象に残っております。

- 柿本 3社を見比べ、まず東京書籍と開隆堂の教科書には、表紙や巻頭の見開

教育長 きページに、自立、共生、持続可能社会といった家庭科で目指す理念が子どもたちに伝わるように、しっかりと提示されておりました。

また、東京書籍と開隆堂とを比べてみますと、扱う単元の順番に違いがございました。それは中学校になって初めに学ぶ内容の違いです。東京書籍は「私たちの食生活」、開隆堂は「家族、家庭と子どもの成長」というように、順番がはっきりと違っていています。

開隆堂を詳しく見てみますと、「家庭の働き」「家庭生活と地域」「私の成長」「幼児」というように展開してまいります。この単元の展開自体は、ほかの教科書と大きく変わるものではございませんが、家庭科で目指す理念をしっかりと打ち出して、中学生で家族、家庭の単元から家庭科の学習をスタートするというのを、私は評価したいと思っております。

学習が始まってすぐのところには、「男女共同参画社会を目指して」という探求のページも設定されて、スタートのところで家庭科としてこの先何を目指すのかがはっきりとした教科書が、開隆堂であると思えました。

そこで、私は開隆堂を推したいと思えます。

○青 蔭 ありがとうございます。ほかにご意見等はございますか。よろしいで
委員長 しょうか。

質疑を終結いたします。

それでは、技術・家庭（家庭分野）について採決いたします。本件につきまして、発行者名を読み上げますので、賛成の委員の挙手を求めます。

東京書籍、3名。教育図書、ゼロ。開隆堂、1名。

東京書籍が賛成3名ですので、技術・家庭（家庭分野）の教科用図書につきましても、東京書籍に決しました。

続きまして、英語について審議いたします。

細部説明を求めます。藤井指導室長。

○藤 井 英語について、採択検討委員会では、第1順位が三省堂、第2順位が開
指導室長 隆堂、第3順位が教育出版、以下、東京書籍、学校図書、光村図書が同順位という推薦をいただきました。

三省堂につきましても、4技能（聞く・話す・読む・書く）や言語活動をバランスよく配置している。教科書がA B判の大きさと書き込みしやす

い。コミュニケーションを育てるのによい。見やすい。学習指導要領に示された内容が適切に配置していることや、使いやすさでの先生たちの評価が高い。

開隆堂につきましては、4技能（聞く・話す・読む・書く）や言語活動をバランスよく配置している。小学校で使っている教材と関連したページがある。教科書がA B判の大きさと書き込みしやすい。会話重視の構成であり、短い会話で慣れ、本文へと学習を進めるため、定着がよい。

教育出版につきましては、4技能（聞く・話す・読む・書く）や言語活動をバランスよく配置している。ワークがあり、自習ができる。資料が整っている。付録がついている。

東京書籍につきましては、4技能（聞く・話す・読む・書く）や言語活動をバランスよく配置している。小学校で使っている教材と関連したページがある。教科書がA B判の大きさと書き込みがしやすい。

学校図書につきましては、4技能（聞く・話す・読む・書く）や言語活動をバランスよく配置している。点字がある。

光村図書につきましては、4技能（聞く・話す・読む・書く）や言語活動をバランスよく配置している。教科書がA B判の大きさと書き込みがしやすい。読み物が多く、1年生の新出単語が多い。

以上が、英語についての報告内容です。

○青 蔭 委員長 ただいま細部説明が終わりました。質疑、ご意見等がございましたら、よろしくお願いいいたします。

○柿 本 教育長 英語については、本当に悩みました。採択検討委員会の第1順位の三省堂と、第2順位の開隆堂で悩んだものです。

現在、中学校で使っているのが開隆堂ですけれども、学校の反応は三省堂、または東京書籍の方が使いやすいという結果で、開隆堂については使いやすさの点ではあまり評価が高くありません。ただ、採択検討委員会からは、内容的に開隆堂も一定程度の評価を得て、第2順位で推薦されています。

三省堂と開隆堂を比べてみますと、双方の教科書とも会話を重視した内容で、3年生ではディスカッション、またはある事柄について説明できる

ようにするなどの力が求められるようになっております。

内容的にも身近な事柄から社会的な事柄まで、題材として取り上げており、英語を通して物事の見方、考え方が広がるというのも、両方とも同じだと感じました。

開隆堂と三省堂の一番大きな違いは授業の構成で、1時間の授業の特に導入部にあるように思いました。開隆堂と三省堂はどちらも、初めに「聞く」という活動から入っています。その「聞く」の後に、三省堂は本文があり、本文を扱った後に、また英語の活動が配置されるという順番になっております。それに対して、開隆堂は「聞く」、「listen」の後に「speak」「try」という活動がきて、その後に本文という順番です。

つまり、スタートと本文の後で活動に入るのか、活動から入って本文につなげるのかと、単純に言えばその点に大きな違いがありました。

すべての教科書に当たってみますと、三省堂は最初に「聞く」がありますが、本文が最初にある教科書が、開隆堂以外のすべてです。ほかの教科書は、本文、活動という構成になっています。

そのような意味では、活動を前に配置しているのは開隆堂の特徴と言えると思います。よって、本文をある程度押さえた後に活動に入るか、活動でポイントをある程度確認してから本文を扱うのか、という授業の流れの違いになってくるかと思えます。

ただ、もちろん教師それぞれの授業構成があり、何もすべて教科書どおりの順番で進めるわけではないので、これに囚われる必要はないと思いますが、おそらく考え方、英語学習に対する見解の違いというのは、今申し上げたような点にあるのではと思います。

私自身の見解ですが、継続性から考えれば開隆堂となると思います。ただ、中学校の英語として、文法について見たときには、三省堂が一番よくまとまっているという感想もあり、現場の意見にもある程度重きを置くのであれば、採択検討委員会も三省堂を第1順位としていることから、私は、本当に悩みましたが、三省堂を推したいと思っております。

○石川 英語の教科書に関しては、前回の採択の折に、大和市では会話に力を入れていくという中で、会話を重視している教科書は開隆堂であろうと、開
委員

隆堂を選んだ経緯があります。

実際これまで使ってみて、教員からの評判はあまり良くなかったというのが現実で、教員が、会話中心の授業に転換できていたのかどうか、ということが一つあります。

ただ、今回採択するに当たって、教員からの評判が使いにくいということであれば、最終的に子どもたちに対する授業をどう構成していくかにおいて、教員が力を発揮するために使いやすい教科書が良いのではと思うわけですね。

今後、日本の英語教育も会話中心になっていくであろうと予想される今、元に戻して良いのかという議論もあるだろうと思います。今は、その過渡期にあると思いますので、私は三省堂か開隆堂かで非常に迷ったわけですが、三省堂を使って会話の授業ができないかという点、そうではないと思います。

今、教育長が分析されたように、いわゆる「聞く」という行為は、どちらも最初に配置している点も含めて、三省堂でも会話を扱うことはきっとできると思います。

ただ、ここで三省堂となったら、それを使うに当たり教員の皆さんへの要望として、会話を中心とした英語教育を目指す授業変革をしていくことをお願いし、私は三省堂を選ぶのが良いと思いました。

○鈴木委員 私も、三省堂と開隆堂で非常に迷っておりました。英語教育の理念として、今後、小学校から中学校まで含めて、会話が一番大事だと思うので、私は開隆堂を推していきたいと思います。

これまでの4年間で、学校現場の教員にはあまり評判が良くないのかもしれないと思いますが、やはり会話を中心にやっていくという理念が大事だと思うので、私は開隆堂を推したいと思います。

○篠田委員 私も、前回の経緯がありましたので、開隆堂で会話を重視と最初は思っていたのですが、柿本教育長と石川委員のお話にありましたように、三省堂でも同じようにコミュニケーション力を育てることは、教員の使い方次第であり、可能だと思いました。

もちろん会話、コミュニケーションというのはこれからも大事にし、実

際に使える英語という点を教員に意識してもらいながら授業づくりをしてほしいと思います。教科書としては、三省堂はポイントが单元ごと、レッスンごとのページにあって、個人個人が確認しやすい、全体的に構成がすっきりまとまっている、字も大きく見やすいという全体的なバランスを考え、三省堂を選びたいと思います。

○青 蔭 ほかにご意見等はございますか。よろしいでしょうか。
委員長 質疑を終結いたします。

それでは英語について採決いたします。本件について発行者名を読み上げますので、賛成委員の挙手を求めます。

東京書籍、ゼロ。開隆堂、1名。学校図書、ゼロ。三省堂、3名。

三省堂が賛成3名ですので、英語の教科用図書につきましては三省堂に決しました。

最後に、教育長にお願いしたいことがございます。各教員、そして採択検討委員会の方々、今日貴重なご意見を述べていただいた教育委員の方々、採択に係る思いは皆同じく、大和市の子どもたちの学力をつけることです。教員の皆さんには、授業展開におけるご努力を仰ぎたいと思います。直接私たちが、教員の皆さんに申し上げることはできませんので、教育長の立場でぜひ、数多の方々のご努力によって教科書が採択されましたことをお伝えいただきたくお願いいたします。まず教員が教科書を読み砕いて、これが血となり骨となって、大和市の子どもたちのためになっていくことを切に願います。よろしくお願いいたします。

◎閉 会

○青 蔭 以上にて、本日の日程はすべて終了いたしました。
委員長 これにて、教育委員会7月定例会を閉会いたします。

閉会 午後0時25分